

日ごろのお手入れ・点検について

「いざ」という時に住宅用火災警報器がきちんと働くよう日頃から点検・お手入れをしましょう。



ポイント① 点検

1年に1回程度、作動点検をしましょう。また、次のときも必ず作動点検をしてください。

- ◎ 初めて設置したとき
- ◎ 設置場所を変えたとき
- ◎ 掃除をしたとき
- ◎ 長い間留守にしたとき

作動点検は、警報器についている引きひも^(注1)を引く、又は、テストボタンを押すことで行います。音が鳴らない…?→次のことを確認してみてください。

点検のしかた

- ◎ 電池はきちんとセットされていますか?
- ◎ 電池は切れていませんか?

電池をセットしなおし、再度ひもを引くか、テストボタンを押してみてください。それでも鳴らない場合は、電池切れや故障が考えられます。

※点検や清掃時にハシゴなどを使用する場合は、転落等にくれぐれも注意を!

注1 機種によっては「引きひも」がないものもあります。その場合は、テストボタンで点検してください。



ポイント② 清掃

警報器にほこりやクモの巣などが付くと、火災を感知しにくくなったり誤作動の原因となります。次の点にご注意の上、定期的にお掃除をしましょう。

- ◎ お掃除は、乾いた布か水又は中性洗剤を染み込ませた布を固く絞ってお使いください。
- ◎ シンナー、ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- ◎ 水洗いできません。
- ◎ 掃除の際は、煙流入口を傷付けたりしないように注意してください。



どうすればいい?住宅用火災警報器が鳴ったら

火災のとき 火元を確認して、すみやかに避難し、大きな声で助けを求めましょう! 119番通報や、可能であれば初期消火を行いましょう。

火災以外で鳴ったとき 次の事項をご確認ください。

- ◎ タバコの煙や、調理中の湯気や煙が漂っていませんか?
 - ◎ 煙式の殺虫剤を使用していませんか?
- このほか、ホコリなどでも誤作動し、警報音が鳴る場合があります。

そのときは…

引きひもを引くか、ボタンを押すと警報音が止まります。窓やドアを開けて換気を行いましょう。調理中の湯気や煙が原因の場合は、取り付けの位置が悪い場合がありますので、取付位置をご検討ください。煙式の殺虫剤でも鳴ることがありますので、警報器をあらかじめビニール袋などで覆っておくとよいでしょう。

周囲に煙や湯気がないのに警報器から音が… どうすればいいの?

一定の間隔(数秒~60秒程度)で「ピッ」あるいは「ピッ ピッ ピッ」と短い音が鳴る場合は、電池切れや、故障が考えられます。(メーカーや機種によって違いがあります。)取扱説明書をご確認ください。引きひもを引くか、ボタンを押すと警報音が止まります。この場合、12時間程度経過すると再び鳴り出しますので、販売店に相談するなど早めの対処をお願いいたします。

消火は
無理せずに!



住宅用火災警報器 設置から10年を目安に交換しましょう！

平成18年6月の消防法改正により、新築住宅に住宅用火災警報器の設置が義務化されてから10年以上経過しています。また、平成23年6月には設置猶予期間が満了し、既存住宅を含むすべての住宅に設置が必要となりました。

古くなった住宅用火災警報器は、電子部品の劣化や電池切れなどで、正常に火災を感知しなくなることがあります。

設置した時期を調べるには？

住宅用火災警報器を設置したときに記入した「設置年月」、または本体に記載されている「製造年」を確認してください。もしわからない場合や何も記載されていない場合は、こまめに点検を行い、故障などの場合は10年を経過していなくても交換しましょう。

新しい住宅用火災警報器に交換したら！

次の交換時期が分かるように本体の側面などに油性ペンで「設置年月」を記入しましょう。交換後は作動するか点検しましょう。



記入例
設置年月 2019年1月

住宅用火災警報器を設置したあとは、定期的に点検を実施し、10年を目安に交換しましょう！

住宅用火災警報器は、あなたや大切な家族の「命」を守ります！

